

経済・金融  
フラッシュブラジル GDP(2023年7-9月期)  
-3 四半期連続の前期比プラス成長

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

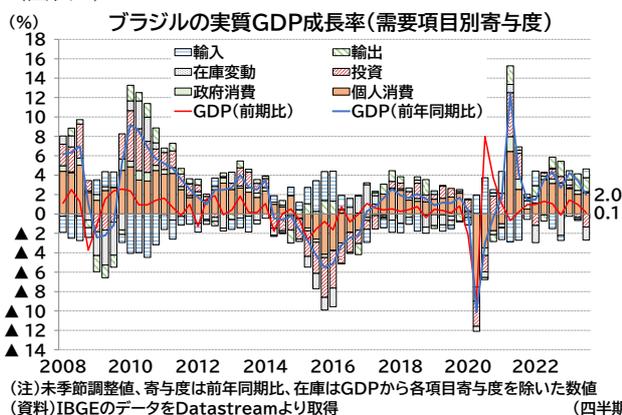
## 1. 結果の概要: 前期比 0.1% でプラス成長が継続

12月5日、ブラジル地理統計院（IBGE）は国内総生産（GDP）を公表し、結果は以下の通りとなった。

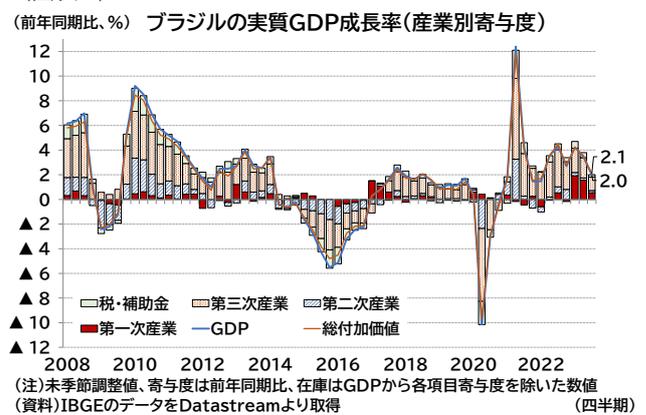
## 【実質GDP成長率（2023年7-9月期）】

- ・前年同期比伸び率（未季節調整値）は2.0%、市場予想<sup>1</sup>（1.8%）を上回ったが、前期（3.5%）から低下した（図表1・2）。
- ・前期比伸び率（季節調整値）は0.1%、予想（▲0.3%）を上回ったが、前期（1.0%）から減速した。

(図表1)



(図表2)



## 2. 結果の詳細: 消費や輸出が高成長を維持

23年7-9月期の実質GDP伸び率は前期比0.1%（季節調整値、年率換算0.6%）で、4-6月期（前期比1.0%、年率換算4.0%）から減速したものの、予想を上回る高い伸び率を記録した。コロナ禍前（19年10-12月期）比では7.2%となった（図表4・5）。

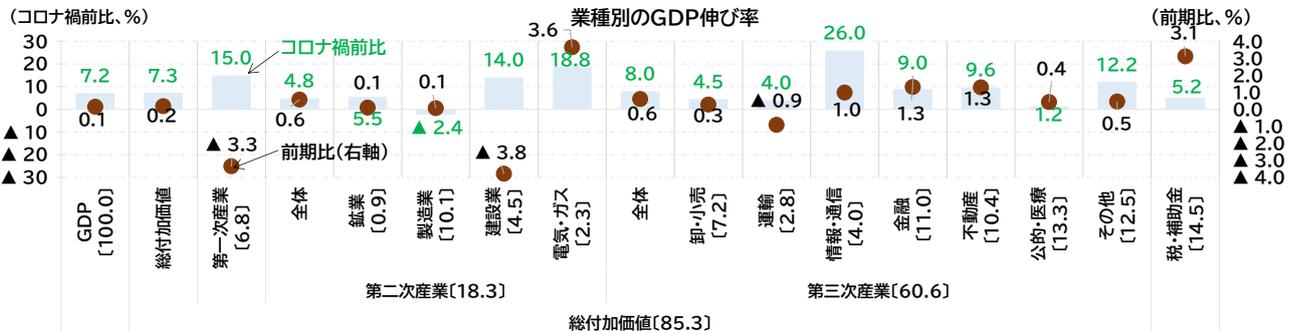
成長率（前期比）を需要項目別に見ると、個人消費が1.1%（前期：0.9%）、政府消費が0.5%（前期：1.0%）、投資▲2.5%（前期：▲0.3%）、輸出が3.0%（前期：3.5%）、輸入が▲2.1%（前期：4.1%）となった。消費や輸出は前期に続き高めの成長を維持する一方、投資はマイナス成長が続いている。ブラジル中銀は8月から利下げを開始し、11月までに1.5%ポイント引き下げている

<sup>1</sup> bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

が (13.75→12.25%)、7-9 月期時点では投資の下支えには至っていない。

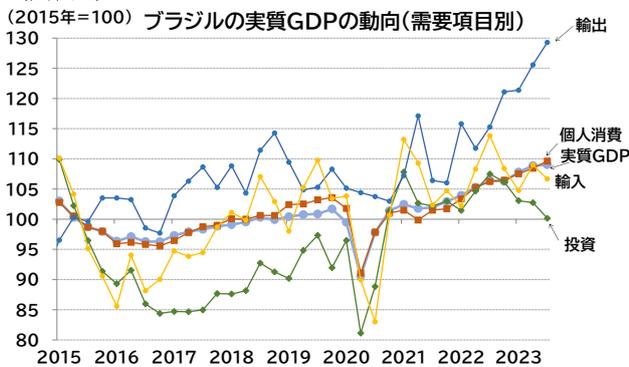
なお、コロナ禍前との対比では、個人消費が 5.8%、政府消費が 4.7%、投資が 8.9%、輸出が 19.4%、輸入 3.1% だった (図表 4)。

(図表 3)



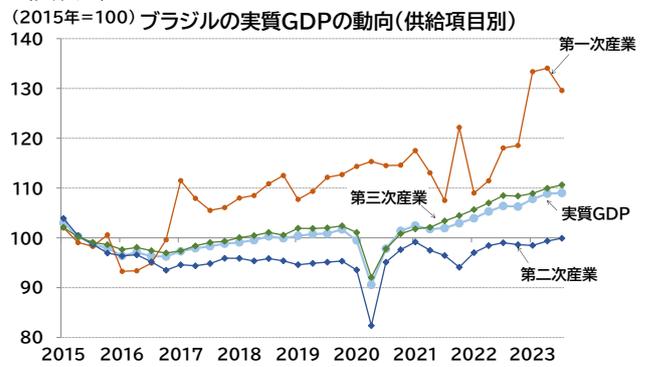
(注)カッコ内は2019年のGDPに占める各産業の割合、グラフに記載している数値(データラベル)は黒が前期比、緑がコロナ禍前比の数値  
(資料)IBGEのデータをDatastreamより取得

(図表 4)



(注)季節調整系列の2015年を100として指数化  
(資料)IBGEのデータをDatastreamより取得

(図表 5)



(注)季節調整系列の2015年を100として指数化  
(資料)IBGEのデータをDatastreamより取得

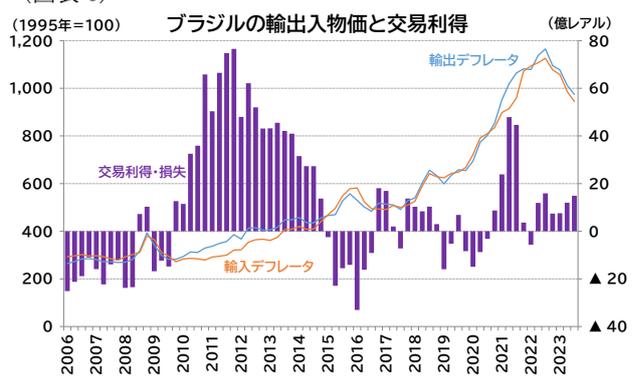
産業分類別に実質GDPの伸び率を見ると (図表 3・5)、第一次産業は前期比▲3.3% (前期: 0.5%)、第二次産業は同 0.6% (前期: 0.9%)、第三次産業は同 0.6% (前期: 1.0%) だった。第一次産業はマイナス成長となったが、IBGEは特に前期までの大豆生産が好調だったことによる反動減と評価している。

より細かい業種では、第二次産業のうち電気・ガスが前期比 3.6%と高成長だったが、建設業が▲3.8%と大きく落ち込んだ。なお、IBGEは暑い気候が電力・水消費を促したと指摘している。また第三次産業では、金融 (前期比 1.3%)、不動産 (前期比 1.3%)、情報・通信 (前期比 1.0%) は高めの伸び率だったが、運輸 (前期比▲0.9%) はマイナス成長、卸・小売 (前期比 0.3%) は冴えなかった。

23 年 7-9 月期の名目成長率は前年同期比 5.4% (前期: 7.3%) となった。名目と実質成長率の差 (デフレータに相当) は 3.4% (前期: 3.8%) と低下が続いている。

交易条件に関しては、輸出デフレータと輸入デフレータのいずれも下落するなかで、緩やかな改善が続いている (図表 6)。

(図表 6)



(注)1995年価格、デフレータは名目輸出(輸入)/実質輸出(輸入)で算出  
(資料)CEIC

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。